

50/P0507US

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

JC978 U.S. PTO  
09/834431  
04/13/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 4月13日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-111494

出 願 人

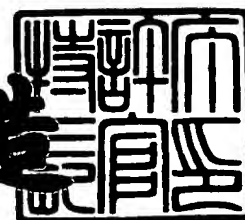
Applicant (s):

ソニー株式会社

2001年 3月16日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3020647

【書類名】 特許願

【整理番号】 0000113005

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H01L 27/14  
H04N 5/335

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 馬淵 圭司

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 3 5 号 ソニー株式会社  
内

【氏名】 塩野 浩一

【特許出願人】

【識別番号】 000002185

【氏名又は名称】 ソニー株式会社

【代表者】 出井 伸之

【代理人】

【識別番号】 100086298

【弁理士】

【氏名又は名称】 船橋 國則

【電話番号】 046-228-9850

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 007364

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

特 2 0 0 0 - 1 1 1 4 9 4

【包括委任状番号】 9904452

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 固体撮像装置およびその駆動方法並びにカメラシステム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 画素が行列状に配列されるとともに、各画素に所定のカラーコーディングを持つカラーフィルタが形成されてなる X Y アドレス型固体撮像素子と、

前記固体撮像素子に対して間引き読み出しが指定されたとき、システムのクロック周波数を変換する周波数変換手段と、

前記周波数変換手段によって変換されたクロック周波数に基づいて前記カラーコーディングに対応した順番で画素を選択して画素信号を読み出す駆動手段とを備えたことを特徴とする固体撮像装置。

【請求項 2】 前記カラーコーディングが 2 行 2 列を単位とし、その単位の繰り返しであり、

前記駆動手段は、行方向にも列方向にも 2 画素ずつ飛ばしながら順に画素信号を読み出す

ことを特徴とする請求項 1 記載の固体撮像装置。

【請求項 3】 前記カラーコーディングが 2 行 2 列を単位とし、その単位の繰り返しであり、

前記駆動手段は、2 行 2 列の単位を行方向にも列方向にも 1 単位ずつ飛ばしながら順に画素信号を読み出す

ことを特徴とする請求項 1 記載の固体撮像装置。

【請求項 4】 前記カラーコーディングが 2 行 2 列を単位とし、その単位の繰り返しであり、

前記駆動手段は、2 行 2 列の単位をさらに  $2 \times 2$  の 4 個ずつまとめ、その単位中左下の画素同士の加算信号、右下の画素同士の加算信号、左上の画素同士の加算信号、右上の画素同士の加算信号を順に読み出す

ことを特徴とする請求項 1 記載の固体撮像装置。

【請求項 5】 前記カラーコーディングが同一列では同一色で、行方向に 3 色の繰り返しであり、

前記駆動手段は、行方向にも列方向にも1画素ずつ飛ばしながら順に画素信号を読み出す

ことを特徴とする請求項1記載の固体撮像装置。

【請求項6】 画素が行列状に配列されるとともに、各画素に所定のカラーコーディングを持つカラーフィルタが形成されてなるXYアドレス型固体撮像素子と、

前記固体撮像素子に対して間引き読み出しが指定されたとき、前記カラーコーディングの配列順を保つように特定の画素のみを選択して画素信号を読み出す駆動手段と

を備えたことを特徴とする固体撮像装置。

【請求項7】 画素が行列状に配列されるとともに、各画素に所定のカラーコーディングを持つカラーフィルタが形成されてなるXYアドレス型固体撮像素子と、

少なくとも1画素は他の画素と隣接しない複数の画素を選択して該複数の画素の各々に対応する画素信号を加算して読み出す駆動手段と

を備えたことを特徴とする固体撮像装置。

【請求項8】 画素が行列状に配列されるとともに、各画素に所定のカラーコーディングを持つカラーフィルタが形成されてなるXYアドレス型固体撮像素子を用いた固体撮像装置の駆動方法であって、

前記固体撮像素子に対して間引き読み出しが指定されたとき、システムのクロック周波数を変換し、

その変換されたクロック周波数に基づいて前記カラーコーディングに対応した順番で画素を選択して画素信号を読み出す

ことを特徴とする固体撮像装置の駆動方法。

【請求項9】 前記カラーコーディングが2行2列を単位とし、その単位の繰り返しであり、

行方向にも列方向にも2画素ずつ飛ばしながら順に画素信号を読み出す

ことを特徴とする請求項8記載の固体撮像装置の駆動方法。

【請求項10】 前記カラーコーディングが2行2列を単位とし、その単位

の繰り返しであり、

2 行 2 列の単位を行方向にも列方向にも 1 単位ずつ飛ばしながら順に画素信号を読み出す

ことを特徴とする請求項 8 記載の固体撮像装置の駆動方法。

【請求項 1 1】 前記カラーコーディングが 2 行 2 列を単位とし、その単位の繰り返しであり、

2 行 2 列の単位をさらに  $2 \times 2$  の 4 個ずつまとめ、その単位中左下の画素同士の加算信号、右下の画素同士の加算信号、左上の画素同士の加算信号、右上の画素同士の加算信号を順に読み出す

ことを特徴とする請求項 8 記載の固体撮像装置の駆動方法。

【請求項 1 2】 前記カラーコーディングが同一列では同一色で、行方向に 3 色の繰り返しであり、

行方向にも列方向にも 1 画素ずつ飛ばしながら順に画素信号を読み出す

ことを特徴とする請求項 8 記載の固体撮像装置の駆動方法。

【請求項 1 3】 画素が行列状に配列されるとともに、各画素に所定のカラーコーディングを持つカラーフィルタが形成されてなる X Y アドレス型固体撮像素子と、

前記固体撮像素子に対して全画素読み出しモードと間引き読み出しモードとを選択的に設定する動作モード設定手段と、

前記間引き読み出しモードが設定されたとき、システムのクロック周波数を変換する周波数変換手段と、

前記間引き読み出しモードが設定されたとき、前記周波数変換手段によって変換されたクロック周波数に基づいて前記カラーコーディングに対応した順番で画素を選択して画素信号を読み出す駆動手段と、

前記間引き読み出しモードが設定されたとき、前記周波数変換手段によって変換されたクロック周波数に基づいて前記固体撮像素子の出力信号を処理する信号処理手段と

を備えたことを特徴とするカメラシステム。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、固体撮像装置およびその駆動方法並びにカメラシステムに関し、特にMOS型イメージセンサに代表されるXYアドレス型固体撮像素子を用いた固体撮像装置およびその駆動方法、並びにXYアドレス型固体撮像素子を撮像デバイスとして用いたデジタルスチルカメラなどのカメラシステムに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

デジタルスチルカメラに代表される静止画の撮像技術では、撮像デバイスとして多画素の固体撮像素子を用い、全画素の画素情報を独立に読み出すことによって静止画を得るようにしている。例えばデジタルスチルカメラでは、シャッターを切って撮り込んだ静止画には高精細化が要求されるため、より多画素の固体撮像素子が用いられる。

【 0 0 0 3 】

一方、静止画を撮り込む前には、通常、小画面の例えば液晶モニタに動画（被写体画像）を映し出して被写体を確認（モニタリング）する作業が行われる。この被写体を確認している段階（モニタリングモード）では、液晶モニタの画素数に応じた荒い画像（低解像度の画像）が良い。

【 0 0 0 4 】

また、デジタルスチルカメラ等の携帯機器における画像伝送では、送信のデータレートが限られている。したがって、静止画については高精細な画像を得るために全画素の画素情報を伝送し、動画については画素情報を間引きすることによって情報量を減少させて伝送するようにしている。

【 0 0 0 5 】

これまでは、単板式カラーカメラ用の撮像デバイスとして、電荷転送型固体撮像素子、例えばCCD(Charge Coupled Device)型イメージセンサを用いるのが一般的であった。これに対して、近年、低消費電力化やシステムの小型化の点でCCD型イメージセンサよりも有利なXYアドレス型固体撮像素子、例えばMOS型イメージセンサが用いられるようになってきた。

## 【0006】

ところで、単板式カラーカメラにおいて、撮像デバイスとしてCCD型イメージセンサを用いた場合の画素情報の間引き処理では、例えば、当該イメージセンサから画素情報を全画素分読み出した後、外部の信号処理系で画素情報を間引く方法が採られていた。また、撮像デバイスとして例えばMOS型イメージセンサを用いたカラーカメラにおいても、CCD型イメージセンサでの間引き読み出し方法になっていた。

## 【0007】

このように、画素情報を全画素分イメージセンサから読み出した後、外部の信号処理系で画素情報の間引きを行う間引き読み出し方法を取っていたのは、次の理由による。

## 【0008】

その理由としては、①カラーフィルタの色の空間配置と出力順序を保って画素情報を間引くことができなかったこと、②画素を選択する選択手段として用いる通常のシフトレジスタでは画素が順に選択されてしまうこと、③CCD型イメージセンサでは画素からの信号電荷の読み出しが順番にしか行えなかったこと、などが挙げられる。

## 【0009】

一例として、1画素おきに画素情報を間引く場合を考えると、色の区別がなければ、縦（垂直）横（水平）それぞれの方向に情報量を1/2に圧縮できる。しかし、図9に示すように、各画素に色の区別がある場合は、1画素おきに画素情報を間引くと、斜線部の画素のみから画素情報を読み出すことになり、例えばB（青）の画素情報しか読み出せないため、カラー画像を得ることができない。

## 【0010】

## 【発明が解決しようとする課題】

このような理由から、CCD型イメージセンサあるいはMOS型イメージセンサを撮像デバイスとして用いた単板式カラーカメラでは、イメージセンサから画素情報を全画素分読み出した後、外部の信号処理系で画素情報の間引き処理を行うようにしていた。しかしながら、この場合、間引き処理によって情報量を減ら



しているにもかかわらず、イメージセンサの駆動周波数は不変であるので、消費電力を低減できることにはならず、逆に、後段の信号処理系に負荷をかける結果となっていた。

【 0 0 1 1 】

特に、MOS型イメージセンサを撮像デバイスとして用いた単板式カラーカメラにあっては、CCD型イメージセンサに対する優位性が、先述したように、低消費電力化とシステムの小型化にあるので、画素情報量を減らした場合には、それに応じて後段の信号処理系に負荷をかけずに消費電力を低減できれば、その意義は非常に大きいと言える。

【 0 0 1 2 】

本発明は、上記課題に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、画素情報の間引き処理を行う場合に後段の信号処理系に負荷をかけずに、消費電力の低減を可能とした固体撮像装置およびその駆動方法並びにカメラシステムを提供することにある。

【 0 0 1 3 】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明では、行列状に配列された各画素に対して所定のカラーコーディングを持つカラーフィルタが形成されてなるXYアドレス型固体撮像素子を用い、この固体撮像素子に対して間引き読み出しが指定されたとき、システムのクロック周波数を変換し、その変換されたクロック周波数に基づいてカラーコーディングに対応した順番で画素を選択して画素信号を読み出すようにする。

【 0 0 1 4 】

XYアドレス型固体撮像素子では、任意のアドレス位置の画素を選択して、その画素信号を画素単位で読み出すことができる。そこで、間引き読み出しが指定されたら、まず、システムのクロック周波数を変換する。そして、その周波数変換されたクロック周波数に基づいて、カラーフィルタのカラーコーディングに対応した順番で画素を選択して画素信号を読み出すことで、画素から画素情報を読み出す段階で間引き処理を行う。

【 0 0 1 5 】

## 【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について図面を参照して詳細に説明する。図 1 は、本発明が適用されるカメラシステムの構成の一例を示すブロック図である。

【 0 0 1 6 】

図 1 において、本システムでは、撮像デバイスとして、X Y アドレス型固体撮像素子 1 1、例えば M O S 型イメージセンサが用いられている。この固体撮像素子 1 1 の撮像面上には、結像レンズなどを含む光学系（図示せず）を通して被写体からの入射光（像光）が結像される。また、本システムには、システム動作の基準となるクロックが入力される。

【 0 0 1 7 】

このクロックは、本システムの動作モード（全画素読み出しモード／間引き読み出しモード）を選択するモード選択信号と共に分周回路 1 2 に入力される。モード選択信号は、動作モード設定部 1 3 から出力される。分周回路 1 2 は、入力されたクロックの周波数をモード選択信号に応じて変換し、タイミング発生器 1 4 および後述する固体撮像素子 1 1 の信号処理系に供給される。

【 0 0 1 8 】

タイミング発生器 1 4 は、分周回路 1 2 から入力される動作モードに応じた周波数のクロックに基づいて、X Y アドレス型固体撮像素子 1 1 の駆動に必要な各種の駆動パルスが発生し、これら駆動パルスを固体撮像素子 1 1 に供給する。固体撮像素子 1 1 の後段には、A G C（自動利得制御）回路 1 5、A D（アナログーデジタル）コンバータ 1 6 およびカメラ信号処理回路 1 7 が設けられている。これらの回路 1 5、1 6、1 7 には、分周回路 1 2 から動作モードに応じた周波数のクロックが供給される。

【 0 0 1 9 】

A G C 回路 1 5 は、固体撮像素子 1 1 の出力信号に対してその信号レベルを一定するための A G C 処理を行う。A D コンバータ 1 6 は、この A G C 回路 1 5 の出力信号を A D 変換してカメラ信号処理回路 1 7 に供給する。これにより、カメラ信号処理回路 1 7 は、デジタル信号処理（D S P）構成となっている。このカ

メラ信号処理回路17では、入力される撮像データ（映像データ）から輝度信号および色差信号を生成するカメラ信号処理や、自動露光、オートフォーカス、オートホワイトバランス等の検出処理などの信号処理が行われる。

#### 【0020】

図2は、MOS型イメージセンサの一例を示す概略構成図である。本MOS型イメージセンサは、画素部21、垂直走査系22および水平走査系23を有する構成となっている。

#### 【0021】

画素部21は、例えばフォトダイオードPDおよび選択トランジスタTrからなる単位画素24が多数、行列状に配列された構成となっている。ここでは、図面の簡略化のために、6行6列分の画素配列を示している。そして、図2において、単位画素24の各々には、画素位置を示すアドレスXYを添え字で付すものとする。例えば、1行1列目の画素を画素24<sub>11</sub>と記す。

#### 【0022】

この画素部21の各画素に対して、垂直選択線25-1～25-6および垂直信号線26-1～26-6がマトリクス状に配線されている。そして、垂直選択線25-1～25-6には単位画素24の各々における選択トランジスタTrの制御電極が、垂直信号線26-1～26-6には選択トランジスタTrの出力電極が各画素ごとに接続されている。

#### 【0023】

垂直走査系22は、V（垂直）デコーダ221によって構成されている。このVデコーダ221は、図1のタイミング発生器13から入力されるV選択信号に応答して行選択パルスV1～V6を順次出力し、垂直選択線25-1～25-6の各々に印加する。

#### 【0024】

水平走査系23は、水平選択トランジスタ231-1～232-6、H（水平）デコーダ232および出力アンプ233を有する構成となっている。水平選択トランジスタ231-1～232-6は、垂直信号線26-1～26-6の各出力端と水平信号線234との間にそれぞれ接続されている。Hデコーダ232は、タイミング

発生器 1 3 から入力される H 選択信号に応答して水平選択パルス H 1 ~ H 6 を順次出力し、水平選択トランジスタ 2 3 1 -1 ~ 2 3 2 -6 の各制御電極に与える。

## 【 0 0 2 5 】

出力アンプ 2 3 3 は、水平信号線 2 3 4 の一端（出力端）に接続されており、画素部 2 1 から水平選択トランジスタ 2 3 1 -1 ~ 2 3 2 -6 を通して水平信号線 2 3 4 に順次出力される画素信号を出力信号 V O U T として導出する。なお、水平信号線 2 3 4 の他端には、クランプトランジスタ 2 3 5 が接続されている。このクランプトランジスタ 2 3 5 は、タイミング発生器 1 3 から入力されるクランプパルス C L P に応答して水平信号線 2 3 4 の電位を、ある一定の電圧（定電圧）にクランプする。

## 【 0 0 2 6 】

次に、上記構成の M O S 型イメージセンサにおいて、画素部 2 1 の全画素の画素信号を読み出す全画素読み出し時の動作について、図 3 のタイミングチャートを用いて説明する。ここでは、行選択パルス V 1 , V 2 、水平選択パルス H 1 ~ H 6 、クランプパルス C L P および出力信号 V O U T のタイミング関係を示している。

## 【 0 0 2 7 】

まず、V デコーダ 2 2 1 から高電位の行選択パルス V 1 が出力され、垂直選択線 2 5 -1 に印加されると、1 行目の画素 2 4 <sub>11</sub> ~ 2 4 <sub>16</sub> の信号が垂直信号線 2 6 -1 ~ 2 6 -6 にそれぞれ読み出される。この状態において、H デコーダ 2 3 2 から高電位の水平選択パルス H 1 が出力されると、水平選択スイッチ 2 3 1 -1 がオン状態になる。すると、垂直信号線 2 6 -1 に読み出された画素 2 4 <sub>11</sub> の信号が、水平選択スイッチ 2 3 1 -1 を通して水平信号線 2 3 4 に出力される。

## 【 0 0 2 8 】

このとき、水平信号線 2 3 4 では、画素 2 4 <sub>11</sub> の信号に応じた電位変動が生じる。そして、この水平信号線 2 3 4 の電位変動が出力アンプ 2 3 3 によって増幅され、画素 2 4 <sub>11</sub> の画素信号として出力される。ここで、クランプパルス C L P に応答してクランプトランジスタ 2 3 5 がオンすると、水平信号線 2 3 4 および垂直信号線 2 6 -1 がある定電圧にリセットされる。

## 【 0 0 2 9 】

次に、水平選択パルスH 1 およびクランプパルスC L P が消滅し、代わってHデコーダ2 3 2 から高電位の水平選択パルスH 2 が出力されると、画素2 4<sub>11</sub>の場合と同様にして画素2 4<sub>12</sub>の画素信号が出力される。以降、この読み出し動作を繰り返すことにより、画素2 4<sub>11</sub>から画素2 4<sub>16</sub>までの1行目の全画素信号が順に読み出される。

## 【 0 0 3 0 】

次に、垂直選択パルスV 1 が消滅し、代わってVデコーダ2 2 1 から高電位の垂直選択パルスV 2 が出力され、垂直選択線2 5-2に印加されると2行目の各画素2 4<sub>21</sub>～2 4<sub>26</sub>が選択される。そして、1行目と同様にして列選択の動作を繰り返し、以降、6行目まで行選択および列選択を繰り返すことにより、画素部2 1における全画素の画素信号が順に読み出されることになる。

## 【 0 0 3 1 】

上述した全画素読み出しの動作において重要なことは、垂直選択パルスV 1 ～V 6 と水平選択パルスH 1 ～H 6 を適当なタイミングで適宜出力できれば、任意の画素の画素信号を選択的に読み出せることである。これは、各画素から信号を読み出す段階で、画素情報の間引き処理を行えることを意味する。そして、ここでは、行の選択手段と列の選択手段として、自由度を持たせるためにデコーダを用いた構成を採っている。

## 【 0 0 3 2 】

ところで、カラー対応のカメラシステムの場合は、画素部2 1にはカラーフィルタが画素単位で例えばオンチップにて設けられることになる。ここで、図4に示すように、カラーフィルタ2 7として、垂直2×水平2（2行2列）を単位とし、その繰り返しの原色カラーコーティングを持つフィルタを搭載したM O S型イメージセンサにおいて、画素情報を間引いて読み出す間引き読み出し処理を実現する場合の動作について説明する。

## 【 0 0 3 3 】

このように、垂直2×水平2繰り返しの原色カラーコーティングを持つカラーフィルタ2 7を用いた場合において、間引き読み出しの第1例として、図4に斜

線で示すように、2行／2列ずつスキップしながら、つまり3行／3列ごとに1画素ずつ画素信号を読み出すようにする。

## 【 0 0 3 4 】

この間引き読み出しを実現するために、図1の分周回路12は、間引き読み出しモードを選択するモード選択信号が動作モード設定部13から与えられることにより、入力されるクロックの周波数を1／9に分周する。この間引き読み出し時のタイミングチャートを図5に示す。

## 【 0 0 3 5 】

なお、図5の横軸（時間軸）は、図3の場合とはスケールが異なっており、実際は図3の場合の9倍となるところを、紙面の関係上、3倍として描いたものである。また、図4には、8行8列の画素配列に対応したカラーコーティングが示されているのに対して、図5には、図2の6行6列の画素配列に対応したタイミング関係が示されている。

## 【 0 0 3 6 】

この間引き読み出しモードでは、まず、Vデコーダ221から高電位の行選択パルスV1が出力され、垂直選択線25-1に印加されると、1行目の画素24<sub>11</sub>～24<sub>16</sub>の各信号が垂直信号線26-1～26-6に読み出される。この状態において、Hデコーダ232から高電位の水平選択パルスH1が出力されると、水平選択スイッチ231-1がオン状態となり、画素24<sub>11</sub>の信号が垂直信号線26-1から水平選択スイッチ231-1を通して水平信号線234に出力される。

## 【 0 0 3 7 】

このとき、水平信号線234では、画素24<sub>11</sub>の信号に応じた電位変動が生じる。そして、この水平信号線234の電位変動が出力アンプ233によって増幅され、画素24<sub>11</sub>の画素信号として出力される。ここで、クランプパルスCLPに応答してクランプトランジスタ235がオンすると、水平信号線234および垂直信号線26-1がある定電圧にリセットされる。

## 【 0 0 3 8 】

次に、水平選択パルスH1およびクランプパルスCLPが消滅し、代わってHデコーダ232から高電位の水平選択パルスH4が出力される。すると、画素2

4<sub>11</sub>の場合と同様にして、画素 2 4<sub>14</sub>の信号が垂直信号線 2 6-4に読み出され、水平選択トランジスタ 2 3 1-4、水平信号線 2 3 4 および出力アンプ 2 3 3を通して出力される。これにより、画素 2 4<sub>12</sub>、2 4<sub>13</sub>についての各信号は読み出されず、間引かれたことになる。

## 【 0 0 3 9 】

次に、図 5 のタイミングチャートには示していないが、垂直選択パルス V 1 に代わって V デコーダ 2 2 1 から高電位の垂直選択パルス V 4 が出力され、垂直選択線 2 5-4 に印加されると 4 行目の画素 2 4<sub>41</sub> ~ 2 4<sub>46</sub> が選択される。そして、1 行目と同様にして列選択の動作を 2 列おきに繰り返すことにより、2 行 / 2 列ずつスキップしながら 1 画素ずつ画素信号が読み出されることになる。

## 【 0 0 4 0 】

上述した第 1 例に係る間引き読み出しによれば、次のような利点を得られる。すなわち、画素信号の順序、空間的な位置関係共に全画素読み出しと同じまま、画素情報量を 1 / 9 に圧縮できる。しかも、後段の信号処理系のシーケンスは全く変更しなくても良いため、信号処理系に負荷をかけることもない。また、システムのクロック周波数が 1 / 9 になるので、消費電力も 1 / 9 に低減できる。さらに、1 秒間に出力できる画像の枚数、即ちフレームレートを一定にできる。

## 【 0 0 4 1 】

続いて、第 1 例と同様に、垂直 2 × 水平 2 繰り返しのカラーコーディングを持つカラーフィルタを用いた場合を前提とした間引き読み出しの第 2 例、第 3 例について述べる。

## 【 0 0 4 2 】

まず、第 2 例に係る間引き読み出しでは、図 6 に斜線で示すように、垂直 2 × 水平 2 を単位とし、その単位を行方向にも列方向にも 1 単位ずつ飛ばしながら順に画素信号を読み出す。また、この間引き読み出しを実現するために、図 1 の分周回路 1 2 ではクロック周波数を 1 / 4 に分周する。

## 【 0 0 4 3 】

この第 2 例に係る間引き読み出しによれば、次のような利点を得られる。すなわち、画素信号の順序を全画素読み出しと同じまま、画素情報量を 1 / 4 に圧縮

できる。しかも、後段の信号処理系のシーケンスは、色の空間的な位置関係が変化することの対応のみで良いため、信号処理系の負荷が少なくて済む。また、システムのクロック周波数が  $1/4$  になるので消費電力も  $1/4$  に低減でき、さらにフレームレートを一定にできる。

## 【0044】

次に、第3例に係る間引き読み出しでは、垂直  $2 \times$  水平  $2$  の単位をさらに  $2 \times 2$  の4個ずつまとめ、その単位中における左下の画素同士の加算信号、右下の画素同士の加算信号、左上の画素同士の加算信号、右上の画素同士の加算信号を、図7に矢印で示すように、走査しながら読み出す。また、この間引き読み出しを実現するために、図1の分周回路12ではクロック周波数を  $1/4$  に分周する。

## 【0045】

この第3例に係る間引き読み出しによれば、次のような利点を得られる。すなわち、画素信号の順序を全画素読み出しと同じまま、画素情報量を  $1/4$  に圧縮できるとともに、加算読み出しによって感度が4倍になる。しかも、後段の信号処理系のシーケンスは、色の重心の空間的な位置関係が変化することの対応のみで良いため、信号処理系の負荷が少なくて済む。なお、色の重心の空間的な位置関係は、第2例に係る間引き読み出しの場合と同じである。また、システムのクロック周波数が  $1/4$  になるので消費電力も  $1/4$  に低減でき、さらにフレームレートを一定にできる。

## 【0046】

図8は、同一列では同一色で、行方向に3色の繰り返しの原色カラーコーディングを示す図である。ここで、このカラーコーディングを持つカラーフィルタ27'を用いた場合の間引き読み出しについて、第4例として説明する。

## 【0047】

この第4例に係る間引き読み出しでは、図8に斜線で示すように、行方向にも列方向にも1画素ずつ飛ばしながら1画素ずつ画素信号を読み出す。また、この間引き読み出しを実現するために、図1の分周回路12ではクロック周波数を  $1/4$  に分周する。

## 【0048】



この第4例に係る間引き読み出しによれば、次のような利点を得られる。すなわち、画素信号の順序、位置関係共に2つの色の定義を入れ替える以外は全画素読み出しと同じで、画素情報量を1/4に圧縮できる。しかも、後段の信号処理系のシーケンスは、2つの色の定義を入れ替えるだけで良いため、信号処理系の負荷が少なくて済む。また、システムのクロック周波数が1/4になるので消費電力も1/4に低減でき、さらにフレームレートを一定にできる。

## 【0049】

上述した各例に係る間引き読み出し動作で重要なことは、垂直方向と水平方向とを適当に選択できれば、任意の位置の画素信号を選択的に読み出せることである。したがって、XYアドレス型固体撮像素子11としては、図2に示したパッシブ(Passive)型のMOS型イメージセンサに限られるものではなく、MOSフォトトランジスタで画素を構成したCMD(Charge Modulation Device)型イメージセンサや増幅型イメージセンサなど、行と列を選択して画素信号を読み出す方式のものならいずれでも構わない。

## 【0050】

なお、上記実施形態では、行の選択手段および列の選択手段として、自由度を持たせるためにデコーダを用いた構成としたが、デコーダ以外でも、全画素読み出し用と間引き読み出し用の2個のシフトレジスタを用いる構成を採ることも可能であり、要は、同様の駆動が行えるのであればその構成は問わない。

## 【0051】

## 【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、XYアドレス型固体撮像素子に対して間引き読み出しが指定されたとき、システムのクロック周波数を変換し、その変換されたクロック周波数に基づいて、カラーフィルタのカラーコーディングに対応した順番で画素を選択して画素信号を読み出すようにしたことにより、画素から画素情報を読み出す段階で間引き処理を行えるので、画素情報の順序、空間的な位置関係共に全画素読み出しと同じまま、信号処理系に負荷をかけることなく画素情報量を圧縮することができ、しかもシステムのクロック周波数の変換に伴って消費電力を低減できるとともに、動作モードを変えてもフレームレートを一

定にできる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明が適用されるカメラシステムの構成の一例を示すブロック図である。

【図 2】

MOS 型イメージセンサの一例を示す概略構成図である。

【図 3】

全画素読み出しの動作説明のためのタイミングチャートである。

【図 4】

第 1 例に係る間引き読み出しの動作説明のための概念図である。

【図 5】

第 1 例に係る間引き読み出しの動作説明のためのタイミングチャートである。

【図 6】

第 2 例に係る間引き読み出しの動作説明のための概念図である。

【図 7】

第 3 例に係る間引き読み出しの動作説明のための概念図である。

【図 8】

第 4 例に係る間引き読み出しの動作説明のための概念図である。

【図 9】

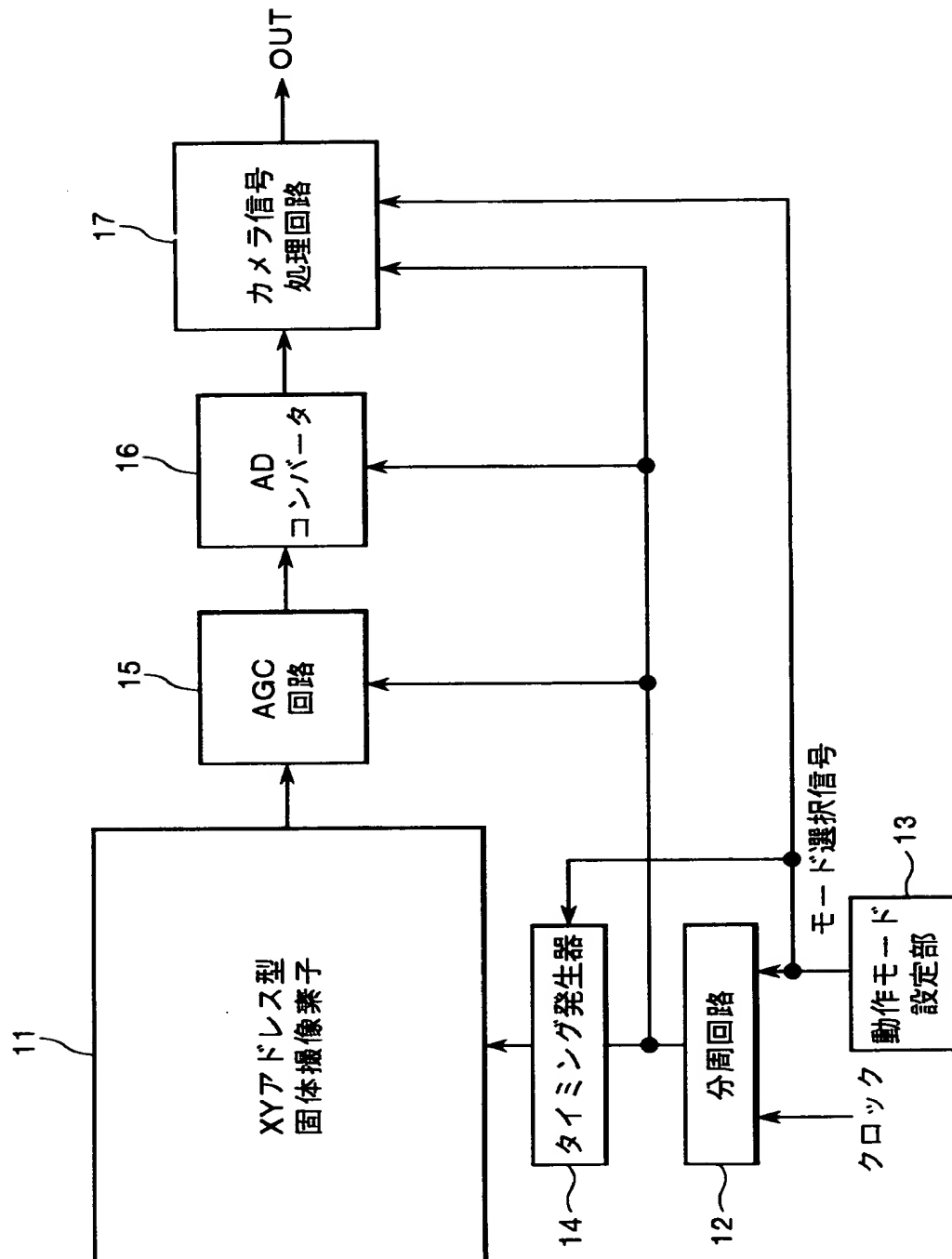
垂直 2 × 水平 2 繰り返しの原色カラーコーディングを示す図である。

【符号の説明】

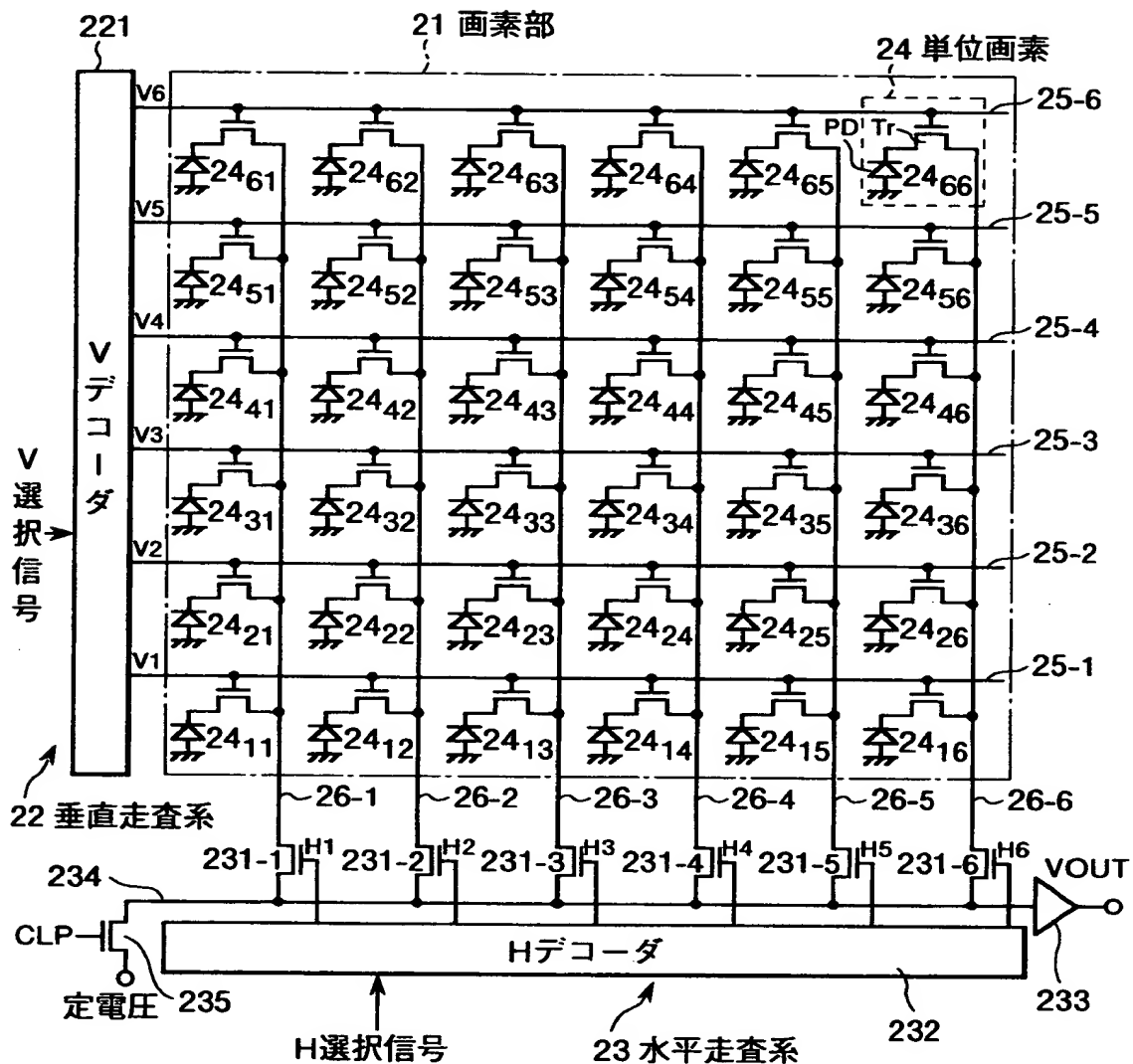
1 1 … X Y アドレス型固体撮像素子、1 2 … 分周回路、1 4 … タイミング発生器、1 7 … カメラ信号処理回路、2 1 … 画素部、2 2 … 垂直走査系、2 3 … 水平走査系、2 4 … 単位画素、2 7, 2 7' … カラーフィルタ

【書類名】 図面

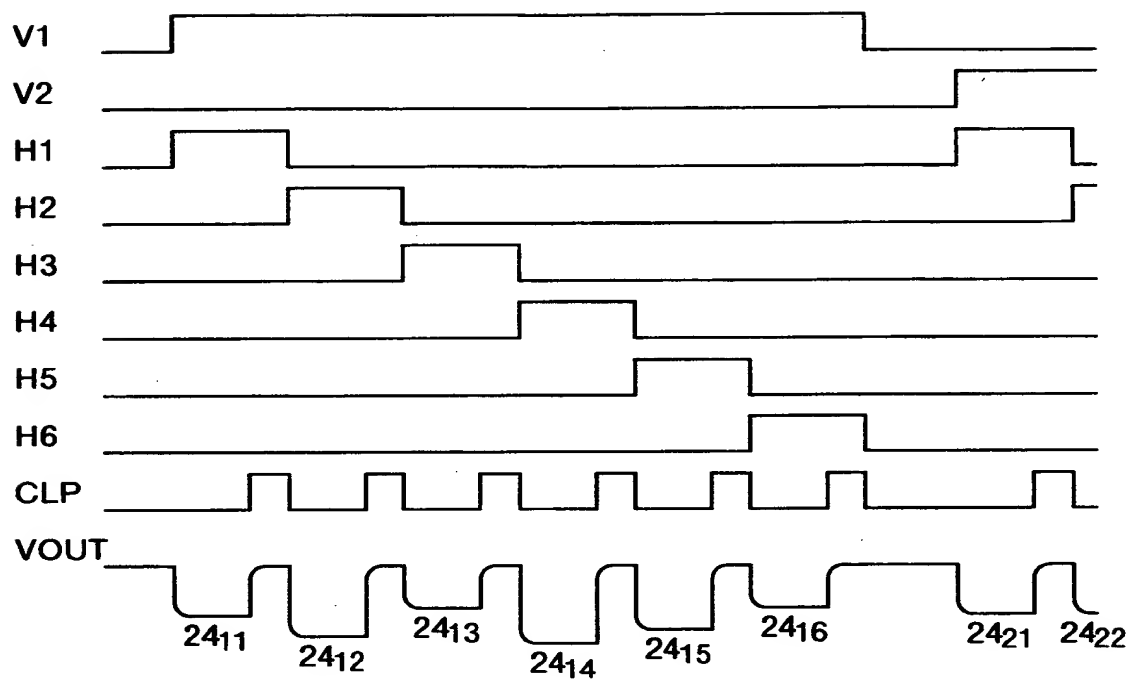
【図 1】



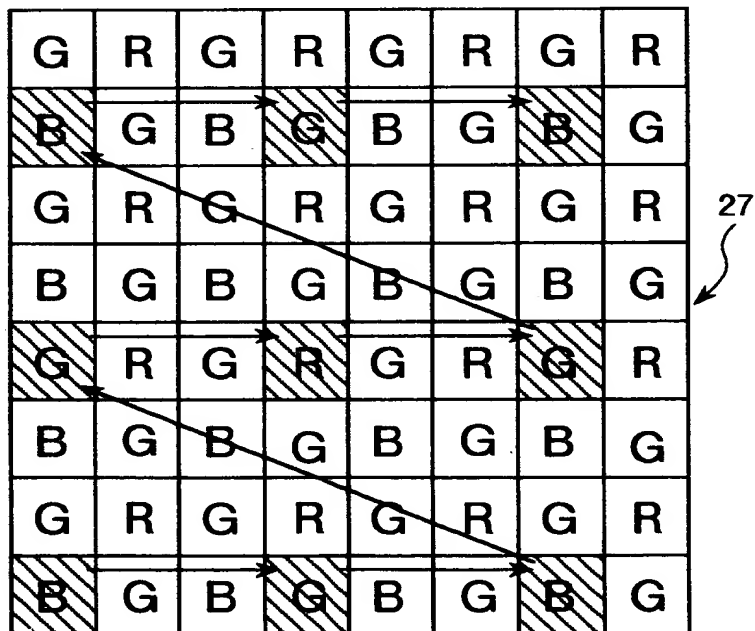
【図 2】



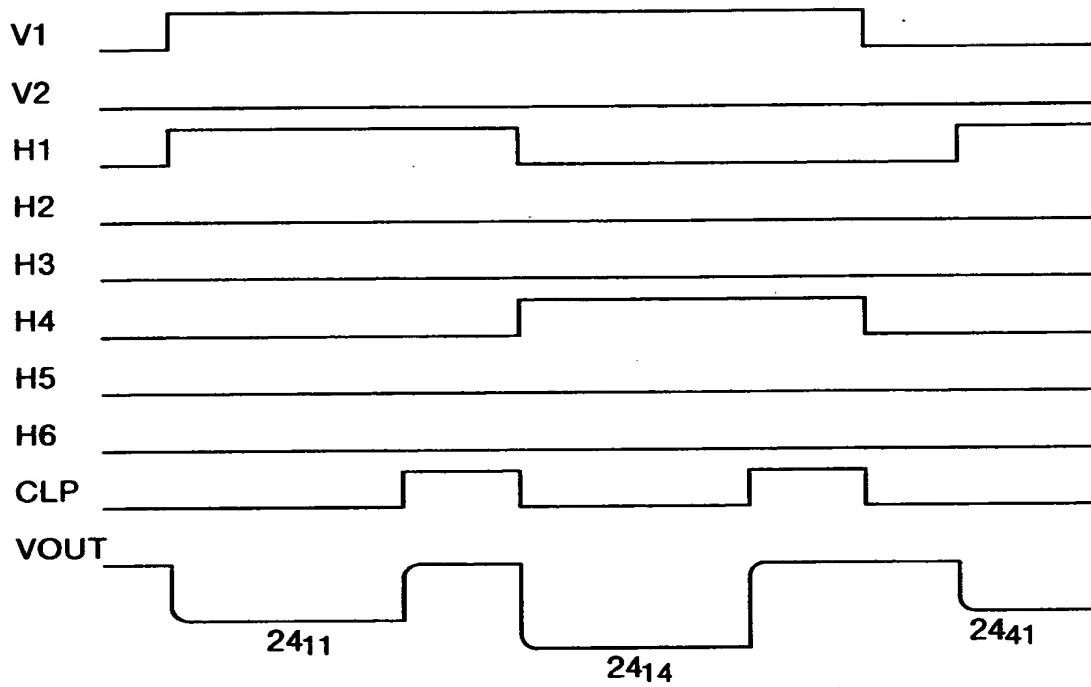
【図 3】



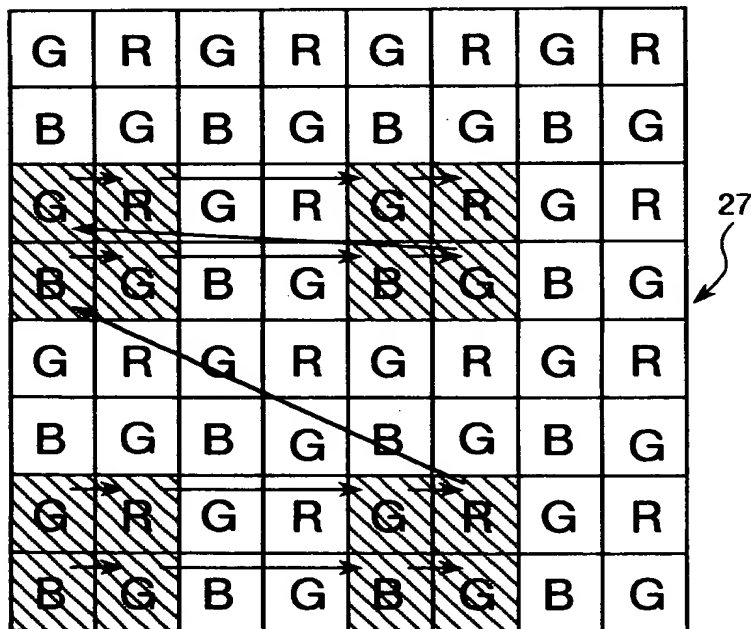
【図 4】



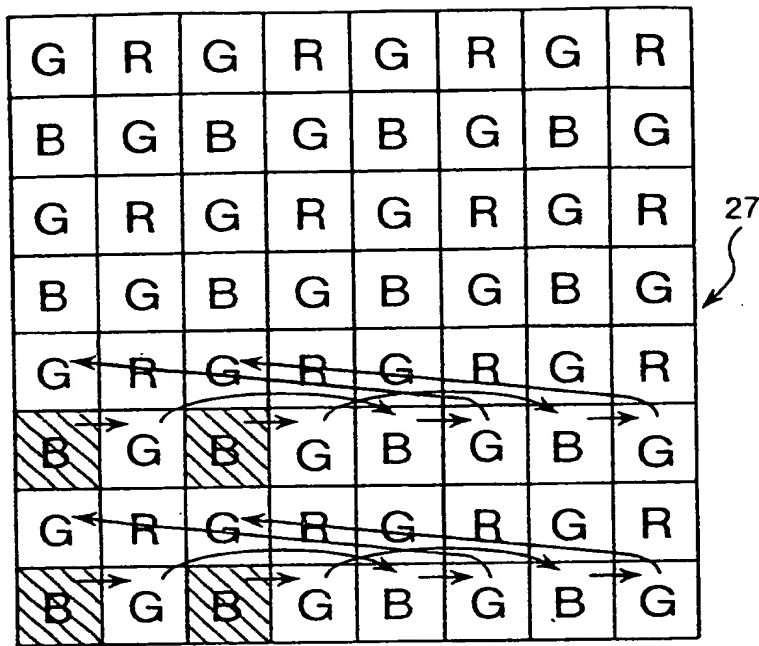
【図 5】



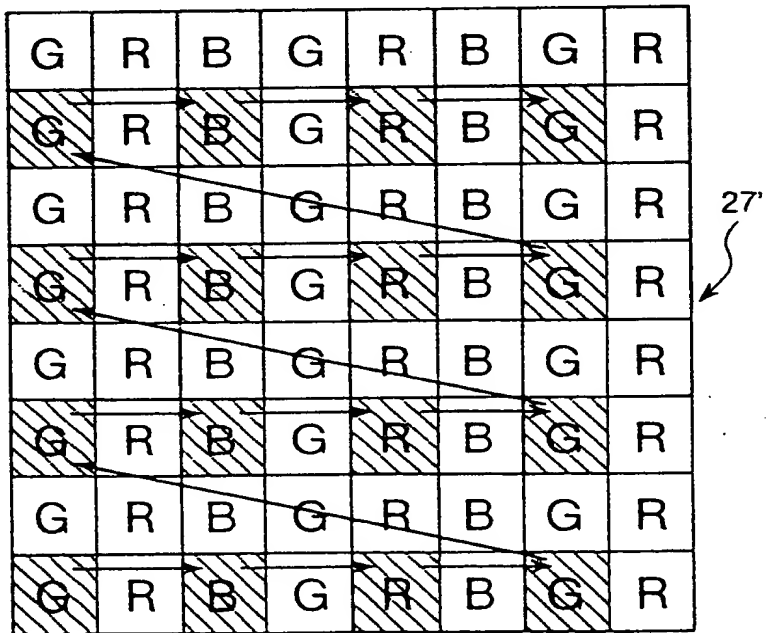
【図 6】



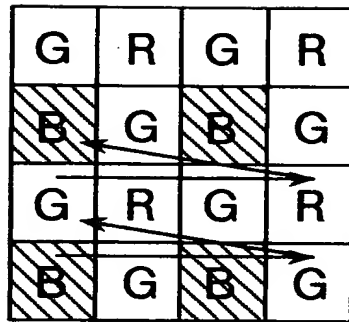
【図 7】



【図 8】



【図 9】





【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 固体撮像素子から画素情報を全画素分読み出した後、外部の信号処理系で画素情報の間引き処理を行った場合、間引き処理によって情報量を減らしているにもかかわらず、駆動周波数は不変であるので、消費電力を低減できることにはならず、逆に、後段の信号処理系に負荷をかける結果となる。

【解決手段】 2行2列を単位とし、その単位の繰り返し（垂直2×水平2繰り返し）のカラーコーディングを持つカラーフィルタ27が配されたXYアドレス型固体撮像素子（例えば、MOS型イメージセンサ）を用い、間引き読み出しモードが指定されたとき、システムのクロック周波数を1/9に変換し、その変換されたクロック周波数に基づいて行方向にも列方向にも2画素ずつ飛ばしながら画素を選択して順に画素信号を読み出すようにする。

【選択図】 図4

認 定 ・ 付 加 情 報

特許出願の番号	特願 2 0 0 0 - 1 1 1 4 9 4
受付番号	5 0 0 0 0 4 6 5 8 4 8
書類名	特許願
担当官	第五担当上席 0 0 9 4
作成日	平成 1 2 年 5 月 1 2 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】	平成12年 4月13日
-------	-------------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000002185]

1. 変更年月日 1990年 8月30日  
[変更理由] 新規登録  
住 所 東京都品川区北品川6丁目7番35号  
氏 名 ソニー株式会社